

RC

Red Cross

V

No.
74

Volunteer

2020. 1.

今回取材に協力して頂いた、
長野市赤十字奉仕団 と
赤十字語学奉仕団 の皆さん
からのメッセージです！



私の今、伝えたいリアル

1人じゃないよ！
ワンチーム♡




Contents

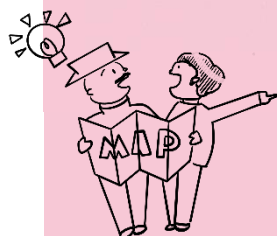
繋げよう、思いやり

- 特集1 赤十字語学奉仕団
～コミュニケーションの秘訣～
- 特集2 災害時のボランティア
～炊き出しで心も体も温かに～

私のおもてなしの心

あいさつから 

スタート♡



笑う 

健常者と

同じく接する!!



What is

赤十字語学奉仕団？

The Japanese Red Cross Language Service Volunteers

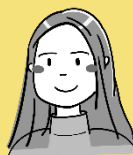


赤十字語学奉仕団は、1964年の東京パラリンピックにおいて海外から来日する選手を迎えるために結成された日本赤十字社パラリンピック通訳奉仕団を母体に設立された奉仕団です。1964年当時、パラリンピック選手が滞在期間を満身に過ごせるよう、通訳に加えて観光ガイドや羽田空港での出迎えなども行いました。その後も赤十字語学奉仕団として語学を生かした多岐に渡る活動を展開し、現在は中学生から90代まで約250名の団員で活動しています。3名の団員へのインタビューも交えながら、現在の活動をご紹介します！



わたなべ もね
渡部 文音さん

入団2年目。
アクセシブル東京
を中心に活動する
高校生。



いけや ゆきこ
池谷 由起子さん

入団7年目。
通訳を中心に
活動する社会人。



はしもと りょうこ
橋本 諒子さん

入団1年目。
通訳を中心に
活動する高校生。



アクセシブル東京

障害をもった方が日本を訪れた際、観光などを
楽しめるよう、観光地のバリアフリーの状況を調
査し、Webサイト「アクセシブル東京」で公開し
ています。掲載する情報は、団員が実際に街に出
掛けて調査・収集します。
初めての調査場所が渋谷だったという渡辺さん。
車椅子を押して人混みの中を通ることがとても難
しく、驚いたそうです。

アクセシブル東京
公開サイト



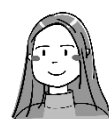
障害者と健常者の
壁をなくしたい、という
思いで活動しています。



渡部さん

翻訳

トピックアルバム（日本と海外で交換する小中高等学校の紹介アルバム）の翻訳活動、日本語の絵本に翻訳をつけて世界の子供たちに送る活動、赤十字関連の文書の翻訳活動等、様々な活動を行っています。



池谷さん

通訳

会議や医療通訳、パラスポーツ大会での司会・取材の通訳等、様々な通訳活動を行っています。橋本さんはパラスポーツ大会の通訳で、選手・コーチ・メディアなどの皆さんに「コミュニケーションを取りやすかった」「仕事をしやすかった」としてもらえるよう意識して、活動しているそうです。
写真：天皇陛下御即位記念2019ジャパンパラゴールボール競技大会閉会式で司会の通訳をする池谷さん。

パラスポーツの迫力を
伝えたい、という思いで
通訳しています。



赤十字語学奉仕団HP

JICAによる外国障害者
リーダー研修の支援や、
日本政府観光局が推進
する善意通訳組織活動

介助ガイド

(SGG)での外国人障害者の観光ガイド
など、障害をもった方が研修や観光等で
来日した際の移動や生活などを幅広く支
援します。



2020年東京パラリンピックに向けて...

東京2020応援プログラムを開催



昨年、10月と11月に赤十字語学奉仕団・日本赤十字社主催でバ
リアフリーについて考えるイベントを2回にわたり開催しまし
た。64年に活躍していた団員をゲストに招き、当時の障害者
を取り巻く状況と今後のバリアフリーについて、お話いただき
ました。また、障害を抱えながらも活躍されているゲストを招
き、現在のバリアフリーについて当事者視点の話をご紹介いた
だきました。参加者にとって、障害者やバリアフリーについ
て理解を深める場となりました。

障害・言葉の壁を超えた

コミュニケーションの秘訣

今年、再びオリンピック・パラリンピックが日本で開催さ
れます。海外の方や障害を持った方など、いつも以上に
多様な方と交流する機会が多くなるかもしれません。
せっかくなら、日本滞在が良い思い出になるようお手伝い
したい！でも、コミュニケーションが少し不安...。そんな
方も多いのではないのでしょうか？
そこで、今回インタビューした3名にコミュニケーション
の秘訣も聞いてみました。



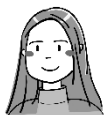
橋本さん

まずは笑顔！相手も自分も心が
和らぎ、会話しやすくなります。
勇気が必要なのは最初の1声。

1回の声掛けで、ハードルが下が
ります。道に迷っている人には、簡単な単語や
ジェスチャーでも多くのことを伝えられます。
案内所の場所を教えるだけでも助けになり
ます。

Q. 障害をもった方に
街で出会ったらどうすれば良い？

Q. 英語に自信がない...
海外から来た方に接する時には？



池谷さん

とにかく声掛けが大事ですね。
私はあいさつから始めています。

声を掛けてもらえるとても嬉しい、と
以前障害を持った方から伺いました。
健全者にも、障害者にも、できるだけ
同じように接することを意識しています。
私は、「車椅子では不便な場所かも」など、身近
な場所を普段から意識して見るようになりました。



渡部さん

ワンポイントアドバイス

- お手伝い必要ですか？の声掛け
- もしかしたら...と日頃から意識しておく！
- ていねいな挨拶
- なにがとも思いきって挑戦してみる
- しんぷるな単語とジェスチャー

長野市赤十字奉仕団

炊き出しで心も体も温かに

令和元年、各地でいろいろな災害が起こり、各地の赤十字奉仕団がさまざまな活動を行いました。今回私たちは、台風19号で甚大な被害を受けた地域の1つである長野県長野市で活動している**長野市赤十字奉仕団(和田委員長、堀内副委員長、岡田分団長)**にインタビューしました。被災地での活動中に心掛けていたことや工夫、活動を通して実感したことや被災された方の想い、これからの課題…。近年増えている自然災害により苦しんでいる人々に対して活動を行っている、奉仕団のみなさんの想いをお伝えします。

心を満たす炊き出し

「野菜不足」「温かいものが食べたい」という被災者の声を聞き、きのこ汁や豚汁等の炊き出しを行いました。食事は提供さえすれば良いものではありません。普段食べ慣れた食事が体のいたわりになり、心を癒します。「本当にありがとう、支援してくれて」と涙を流す方もいらっしゃいました。また、被災者と一緒にこの災害を乗り越えたいという思いから、カップ等に「いっしょにがんばろう！」のメッセージを貼って、被災者の皆さんに提供できたことも喜んでいただいていた要因だと思っています。炊き出しは単にお腹ではなく、心を満たす温かいボランティアだと思っています。



「いっしょにがんばろう！」のメッセージも添えて。



被災者の心に寄り添うこと

被災された方に、何と声掛けすればいいか悩むこともあるかと思いますが、寄り添いたいという気持ちがあればどんな言葉をかけても良いと思います。「お手伝いさせてください」など上から目線ではなく、被災者の立場に立って、一緒に頑張っていく気持ちが相手に伝われば、良いのだと思います。

笑顔でワンチーム

「なぜ長野市はそんなにスムーズに活動ができたのですか？」と聞かれますが、理由は奉仕団内外の連携にあると思います。奉仕団と支部、

支部と地区・分区などの繋がりも委員長は大切にしています。また、普段から委員長は「笑顔でみんなのことを幸せに楽しくすることが奉仕団の役割」「奉仕団の人たちは一つだよ」と言っています。その結果、団結力や連携が高まり、**笑顔のワンチーム**が実現できているのだと思います。



左から堀内さん、和田さん、岡田さん。
「1人じゃないよ！ワンチーム♡」

安全な炊き出しのために

衛生管理は、災害の度に厳しくなっており、炊き出しを行う際、保健所の職員から注意事項が伝達されます。例えば、生野菜や果物の提供禁止やアレルギーへの配慮として材料を掲示する等、炊き出しを実施するにあたり厳しいルールがあります。長野市赤十字奉仕団でも衛生管理を徹底しました。帽子・ヘアーキャップ・マスク・手袋を着用し、水は用意したペットボトルのものを使用しました。また、避難所で調理する際の食中毒等のリスクを最大限に減らすため、支部で材料を全て切って持ち込みました。奉仕団として絶対に食中毒を起こしてはなりません。



赤十字マークを着けて活動すること

私たちの赤十字のマークを見ると、信頼して

いるからか被災者が様々な話をしてくれました。また、避難所で被災者と私たちが話していると、話をしたことのなかった被災者同士が自然と会話しはじめ、私たちが抜けても話し続けていました。赤十字は被災者同士を繋げるパイプ役なのだと強く感じました。

感じた課題

被災者の声が行政等に届いていないという実態が各避難所がありました。被災者にとって赤十字が話しやすい存在であることを活かし、今後、奉仕団は被災者のニーズを叶えられる活動を行えば良いと思います。災害が起きたときの奉仕団の立ち位置や役割について、行政を含めた防災訓練でシミュレーションをし、奉仕団

と行政等が連携を取りながら災害に強い地域づくりができれば良いと思います。

被災地のこれから

災害が発生してから時間が経つと避難所から仮設住宅等に移り、災害後にせっかく形成されたコミュニティがバラバラになってしまいます。被災者から「この先が不安」という声を聞くことが多いので、今後は安否確認をする上でも月に一回地域の皆さんで集まって健康管理をしたり、温かいものを食べたりできるような「拠り所」となる場所を提供したいと思っています。避難所での活動が終わっても、奉仕団としてこれからも被災者に寄り添った活動を継続して行っていきたいと考えています。

被災地とつながり続ける

発災直後は多くのメディアが取り上げ、関心が集まりますが、発災から1年後はどうでしょう。長野市赤十字奉仕団のインタビューでも伺ったように、災害の被害は発災直後だけではなく、息の長い支援を必要とする方がいらっしゃると思います。被災者が避難所から仮設住宅等に移った後、赤十字ボランティアはどのような活動を行っているのでしょうか。平成30年西日本豪雨から1年以上経った今も被災地で活動を続けている赤十字ボランティアの様子を、一部ご紹介します。

広島県

健康教室

健康・栄養赤十字奉仕団では、炊き出しで実際に伺った食や健康への不安の声から、少しでも被災者の健康や食事への不安を軽減するため、仮設住宅の集会所で健康教室を毎月実施しています。脱水予防についてクイズ形式で紹介することや、旬の食材を使ったメニューの提案など、参加者の声を反映させながら活動しています。被災者の心の支えになれるよう活動を続けていきます。



岡山県

サロン活動



社協と連携して防災ボランティアが中心となり、サロンを開催しています。建設型仮設住宅における生活不活発発病の予防が課題であったため、高齢者等が孤立しないための居場所や人間関係づくりを目的としています。2019年1月から月に2回開催しており、1年間の参加者は延べ180人に及びました。参加者は、サロンの中で自らの被災体験を共有しつつも、前を向いています。参加者からは、「仮設住宅に1人で暮らしていると誰とも話さず、運動もしないので参加している。仮設住宅から退去後も参加したい。」との声が上がっています。

長野市赤十字奉仕団の方々へのインタビューでは、実際に活動したからこそその想いや発見を伺うことができました。読者の皆様にその「リアル」を感じて頂けたら幸いです。また、被災者の状況やニーズはもちろん、日ごろからの奉仕団のチームワークが大切なことを学びました。私たちもチームワークを大切にしながら、次号のRCVも編集したいと思います。(上智大学・岩原)

実際に長野を訪れ、赤十字奉仕団の方々にお話を伺った中で、「ワンチーム」「笑顔」という言葉が印象的でした。短い時間ではありましたが、インタビューで奉仕団委員長のお人柄の良さが伝わってきました。このような方がリーダーだからこそ周りの方も協力し助け合えたのだと分かりました。そして災害時だけでなく普段から顔を合わせてコミュニケーションをとることが重要であることを学びました。このRCVを読んでくださっている皆さんに参考になる点があることを願っています。(明治学院大学・去渡)

特集1を担当いたしました。赤十字語学奉仕団の方にインタビューをさせていただき、どのような方に対しても気負わず自然体で良いのだと再確認しました。読者の皆様もぜひ「おもてなし」の標語を心に留めてオリンピック・パラリンピックを迎えていただけたら嬉しいです。(聖心女子大学・藤生)

特集1と表紙のイラストを担当しました。語学奉仕団の皆さんのインタビューでは、私自身多くを学ぶことができました。読者の皆様にも、ご自身の「おもてなし」を見つけていただければ幸いです。(上智大学・三原)

このメンバーでつくった初めてのRCVになります。構成1つにしても、話し合いを重ねこのRCVを通して誰に何を伝えたいのか、届けたいのかを試行錯誤しました。メンバーと話し合う中で他者の思考を知る事ができ新たな視点を知れる良い学びの機会にもなりました。この号を通してボランティアをより知ってもらえる機会になって頂ければ嬉しい限りです。(明治学院大学・亀山)

コ ラ ム

きのこたっぷり

きのこ汁

材料(350食分)

- 水 70ℓ
- えのきだけ 7kg
- ぶなしめじ 10.5 kg
- なめこ 3kg
- たまねぎ 10個
- わけぎ 750g
- みそ 6~6.5 kg

費用: 1人あたり43円

長野市赤十字奉仕団が、今回実際に炊き出しを行った「きのこ汁」のレシピを紹介します。



～作り方～

- ①きのこ類(えのきだけ・ぶなしめじ・なめこ)
・たまねぎ・わけぎを水でサッと洗い、適当な大きさに切る。
- ②釜に水を入れて沸騰させたら、きのこ類を入れる。
- ③沸騰したら、たまねぎ・わけぎ・みそを入れ、味を調べ、一度かき混ぜて出来上がり。

みなさんの声 大募集

RCVでは、全国のボランティアの活動のヒントとなるような、優良活動を紹介しています。

よりよい情報誌を作っていくために、日頃から活動しているみなさんからのご意見を、ぜひお聞かせください！

※ご要望に添えない可能性もありますのでご了承ください。

- ① **今号の特集へのご意見・ご感想**
- ② **こんな特集が見たい！**
「こんな活動がしたい！どこかでしていないかな」。知りたい活動はありませんか？
- ③ **活動を全国に伝えたい！**
掲載したい活動がありましたら、ぜひお知らせください。
- ④ **RCVをメール配信しています！次号からの配信をご希望の方は送信先のメールアドレスをご記載ください。**

受信されるメールアドレスのサーバー容量によっては、データを受信できない場合がございます。また、閲覧される媒体によっては、閲覧ができない場合もございますので、あらかじめご了承ください。※パソコン/スマートフォンによる閲覧を推奨。

- ⑤ **ご意見をいただいた中から、抽選で赤十字グッズをプレゼントします。プレゼントにご応募される方は、メールアドレスを記載してください。当選された方に、ご連絡差し上げます。**

上記をご記入のうえ、
rc-volunteer@jrc.or.jpあてお送りください

こちらからも
ご回答いただけます！



赤十字ボランティアへの参加について

日本赤十字社の活動は、全国のボランティアによって支えられています。あなたも、“苦しんでいる人を救いたい”という思いを行動に移してみませんか？赤十字ボランティアへの参加は、日本赤十字社各都道府県支部・施設で受け付けています。

WEBページで

赤十字 ボランティア

検索



Facebook でも逐次情報を更新しています！



Twitter

〇編集・発行

日本赤十字社 事業局 パートナーシップ推進部
ボランティア活動推進室 青少年・ボランティア課
電話：03-3437-7083(ダイヤルイン)
ホームページ：<http://www.jrc.or.jp/volunteer>